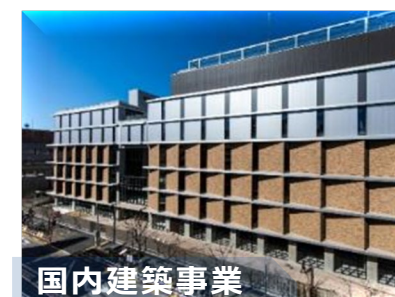


社名 株式会社 安藤・間（呼称：安藤ハザマ）

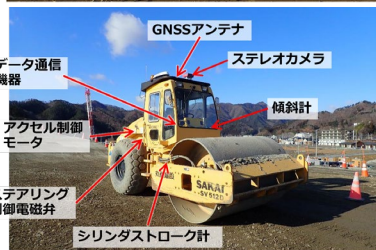
2013年 合併
安藤建設1873年～
間組 1889年～

代表者 代表取締役社長 国谷 一彦
本社 東京都港区東新橋1-9-1
設立 2003年10月1日（合併：2013年）
資本金 約170億円（2024年3月末現在）
売上高 3,626億円（2024年3月期 単体）
従業員数 3,375人（2024年4月1日現在）

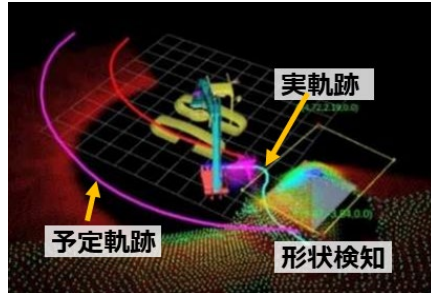


建設機械の自動運転技術、ロボット開発

背景：建設就労者の減少・高齢化 目的：労働力不足の解消、労働環境の改善、生産性および安全性の向上



デジタルツインを活用した汎用建機の複数台連携



2040年に生産性1.5倍
※i-Construction 2.0

イマココ！

- 完全自律化 Level 5
- Level 4 複数の自動化建機連携
- Level 3 自律化:検知と判断の自動化
- Level 2 単独建機の自動化
- Level 1 運転支援(マシンコントロール)
- Level 0 自動化なし（遠隔運転を含む）

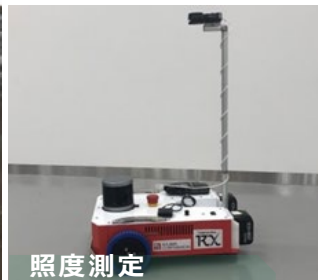
山岳トンネル工事の自動化・遠隔化



自動化建機の開発ステップ

建設DXにより機械の自動化は今後も益々進むが、複数台の一括操作や、自動化機械のトラブル時のメンテナンスなど、遠隔操作も重要な役割を持つ。

安藤ハザマはAIやデジタルツインの活用も合わせ、最適な建設機械による建設工事の安全性向上・施工性向上を目指していく。



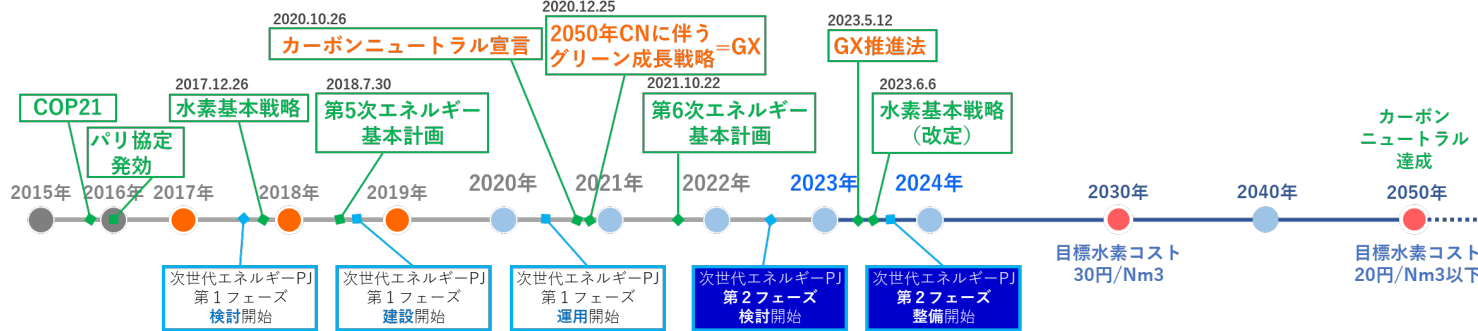
SDGsへの対応

安藤ハザマ環境方針

豊かな青い地球を守り、サステナブルな社会を実現するため、「環境保全」と「環境負荷低減」に貢献する。

○ 安藤ハザマ 次世代エネルギープロジェクト

～CN (Carbon Neutral) GX (Green Transformation) の流れ～



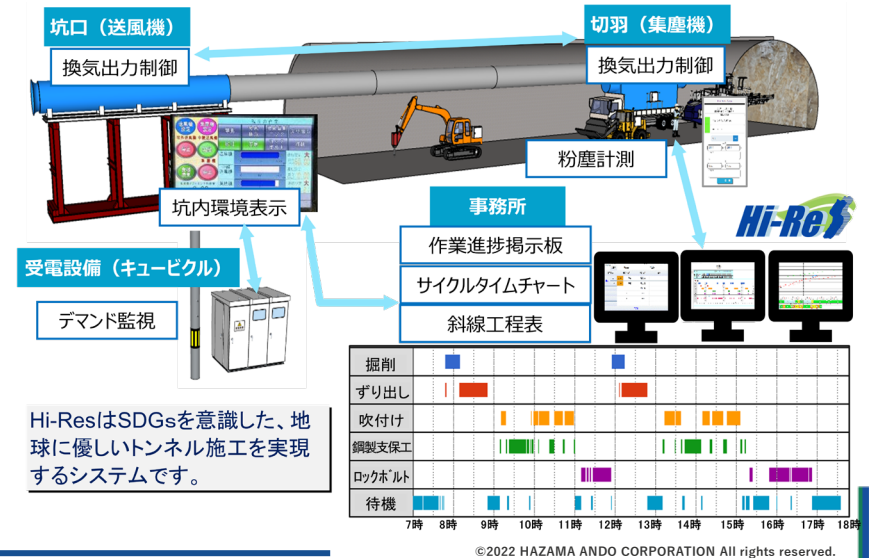
○ 建設段階における環境負荷低減（山岳トンネルの例）

作業状況把握の自動化と、状況に応じた換気設備制御による省電力化を実現

山岳トンネル施工機械は大出力のものが多く、その中で“換気設備”は常時運転を必要とする設備であるため、消費電力量が最も多くなる。

以下によりCO₂排出削減を達成。

- ① 各設備等の稼働状況を電気信号で取得し“作業内容”を自動判断
- ② 作業内容に応じた換気設備の“最適な出力制御”



新たな挑戦「宇宙開発プロジェクト」

背景：現在、約54兆円である“世界の宇宙産業の市場規模”は、2040年までに約140兆円に達すると予測

目的：当社の強みを発揮する分野として、宇宙開発分野での技術革新と事業拡大

従来より培ってきた当社の強みをコア技術として
新たな技術を創造し、宇宙開発に応用！

